

町の図書館が取り組む「医療と健康」

～企画展示「からだと向き合う」を中心に

吉田めぐみ（紫波町図書館）

Q1. ルーラルな地方の図書館のあり方のお手本のような、すばらしい図書館の取り組みだと思います。

A1. ありがとうございます。

Q2. タイムリーなテーマ設定をされていますが、テーマは図書館内の担当者が決められているのでしょうか？図書館全体でお決めなののでしょうか。

A2. 展示担当司書3名で相談しているが、年度初めに12名のスタッフで町の課題を話し合う際に、テーマが見つかることもある。

Q3. 展示資料を作成する時に気をつけていること、こだわっている事はありますか？

A3. できるだけ伝わりやすい方法で何が大事か、素通りされないように考えている。

Q4. 司会の山下さん、もし時間がありましたら京都大学と府立図書館等との、相互貸出などを含む地域における大学と公共との連携の例などもご紹介いただけるとありがたいです。京都は結構進んでいるのではないかと思いますので。

A4. 京都府立図書館と府内市町村立図書館、大学図書館間で連絡車が運行しており、相互貸借などに活用している。

Q5. とても興味深いお話をありがとうございました。認知症、がん治療などとなると、ターゲットが高齢の方になる傾向があるのではと思いました。発達障害については若年の当事者にも見てほしいテーマかと思いますが、若い利用者に伝える工夫など、意識された点などあれば教えてください。

A5. 赤ちゃんからお年寄りまでが来館されているが、来館しなくても連携機関から情報が伝わる場合もある。

質疑応答

Q6. すばらしい協働だと思います。ぜひ、事例報告として文献を発表いただければと思います。

A6. ありがとうございます。

Q7. とても素晴らしい企画展示だと思います。人生会議カード体験というのが興味深いです。人生が残り少なくなったら何をしたいかのカードを1枚選ぶのですか？

A7. 5枚の手札を交換しながら進め、最後に手元に残った5枚が”今の自分の生き方”になる。医療処置を望むかどうかや清潔を望むかなど、医師ならではの視点もある。後ほどHPも参照いただきたい。<https://minlabo.net/shop/>

Q8. 地域の情報拠点として素晴らしい取り組みだと思いました。展示のときや普段、利用者から医療・健康に関して相談がありますか。もしくは、この取り組みを通してレファレンス件数が増えたなどあれば教えてください。

A8. 確実に相談件数が増えている。展示をすることで、図書館に相談しても良いのだと認識してもらえたと思う。レファレンス内容の充実が件数にもつながっているものと考えられる。

Q9. 展示は素通りされずに絶対に見てほしい！と私たち司書は思いますが、テーマによっては、こっそりじっくり見たい…という場合もあるかもしれないと思いました。展示コーナーの設置場所はいつも同じところでしょうか。

A9. 企画展示の目的が、そのテーマについて周囲の理解を深めること、地域で情報を共有することなので、どのテーマも同じ場所で展開しています。

展示づくりの際は、病や健康状態についての話題が、恥ずかしい事、隠す事ではないと感じてもらえるよう、オープンな空気づくりを心掛けています。(それでも、展示に近づけない方はいるかと思います)

企画展示はオープンな場所にあります。通常の本棚やミニコーナーはテーマによって配慮した場所にあること、展示で掲示した情報は後日冊子状にして本棚に納めるので、こっそりじっくり見ていただけたらと思っています。